

ごみ減量大作戦 実行中

問い合わせ…市環境課 (内線233)



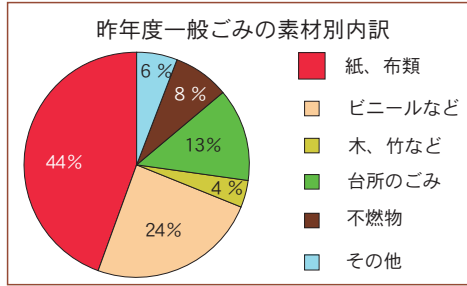
分別すれば資源になる雑紙

メモ用紙やカレンダー、包装紙や封筒などは、私たちの生活に欠かせないもので、役目を終えた後も貴重な循環資源

釜石市で焼却対象となるごみを分析すると、紙、布類が44%と高い割合を占めています。この数値は、まだ資源物として活躍できる紙類が、分別されずに捨てられていく可能性が高いことを示しています。

今回はそんな紙類の中でも「雑紙」に注目をします。

雑紙とは、新聞紙、雑誌、ダンボール、紙バック以外の再生できる紙で、具体的には、折り込みチラシ、菓子やティッシュなどの紙箱、紙袋、



捨てずにつなげる循環の輪

源として再び紙にリサイクルされています。

しかし、集積所に出された一般ごみをよく見ると、これらの雑紙が丸められたり、細かく破つて一緒に捨てられたりしているのが多く見受けられ、まだまだ分別が進んでいないことが分かります。

一枚一枚は軽く、かさばらない雑紙ですが、排出するときは資源と認識して分別し、物を買うときにはできるだけリサイクル製品を選ぶことで、資源循環の輪がつながっていきます。その輪がつながるかどうかの鍵は各家庭での分別にあります。

早速、今日から身近な雑紙の分別を始めてみませんか。

雑紙分別を進めるために、各家庭では、ごみ箱の近くに分別用の紙袋などを置いて、ごみが出るたびに分別していくなどの工夫が効果的です。



雑紙分別用の紙袋

市環境課は、雑紙分別のこのつを記載した雑紙分別用の紙袋(保管用)を作り、試作品を評価するモニターを募集します。希望する人は市環境課へお問い合わせください。

リッツごみ減量

(資源物回収への取り組み)



小佐野栄和会が取り組む資源物回収

小佐野栄和会が資源物回収を始めて約30年。現在では毎月1回の回収日を会報でお知らせし、資源物を各家の軒先に出してもらいます。それを会のリヤカーを引いて戸別に回収し、小佐野児童公園に集め、業者に引き渡します。

町内会や学校PTA、老人クラブなどの団体の皆さん、資源物回収(廃品回収)に取り組んでみませんか。

缶、ビール瓶や一升瓶、新聞、雑誌などの資源物を地域住民の協力により集めて、再生業者に売り払うリサイクル活動を行う場合、市は、売払い金額の3割を奨励金として交付する制度で支援しています(事前登録が必要です)。この制度を活用して年間収入が5万円になった団体もあります。今回は長年実践している小佐野栄和会(老人クラブ)の資源物回収を紹介します。

資源物回収事業 推進奨励金

市に事前登録した団体が資源物を回収し、業者に売り払ったとき、その金額の3割を市が奨励金として交付する制度